特別公開講座
（大学院オペラ 2024 関連企画）

講師：小林 資典

ドイツの劇場への道

― 留学、劇場へのアプローチを目指す指揮者、コレペティ、歌い手へのアドバイス ―

2024 年 7 月 23 日（火）18：00 開始（17：30 開場）
会場：新 1 号館 127 オペラスタジオ　入場無料
対談：中村 敬一 本学招聘教授

～講師プロフィール～

小林 資典 KOBAYASHI Motonori, conductor

千葉県出身。1992-1998年：東京藝術大学音楽学部指揮科、及び大学院指揮研究科にて、F・トラヴィス、および遠藤雅古に師事。1998-2000年：ベルリン芸術大学にてマティアス・フスマンに師事。2000-2008年：ライン・ドイツ歌劇場（デュッセルドルフ・デュースブルク）コレペティトゥア。2008-2013年：ドイツ、ドルトムント市立歌劇場第２指揮者。2013年より同歌劇場音楽総監督代理及び第１指揮者。

ドルトムントで指揮した発掘上演新演《フレデゴンド》（サン=サーンス、ギロー共作）は国際的なオペラ専門誌『Opernwelt』誌、22年年鑑で「最優秀発掘上演」に選出された。同歌劇場ではこれまで《ポルティチの唖娘》新制作を指揮（演出：ペーター・コンヴィチュニー）した他、《ランメルモールのルチア》、《コジ・ファン・トゥッテ》、《後宮からの誘拐》、《愛の妙薬》、《ピーター・グライムズ》、《セヴィリアの理髪師》、《トスカ》、《ばらの騎士》、《アラベラ》、《フィガロの結婚》、《ラ・トラヴィアータ》、《ファルスタッフ》、《オテロ》、《魔笛》等を指揮。レパートリーは多岐に渡るが、とりわけモーツァルト、ベルカント作品指揮に対する評価が高い。同歌劇場の23/24シーズンの指揮予定は《ラ・ボエーム》の他、新制作《天国と地獄》（演出：N.Habjan）、発掘上演新制作A.Holmes作曲《Lamontagne noire》。またベルリン・コーミッシェ・オーパー、マンハイム国立劇場をはじめ客演指揮多数。日本国内では関西二期会本公演《ドン・ジョヴァンニ》（2022年）を指揮。

ドルトムントの他、ヴッパータール交響楽団、ヴュルテンベルク室内オーケストラに客演。また、日本においては読売日本交響楽団に2021年より毎年客演している。この他、愛知室内オーケストラ、大阪交響楽団を客演指揮。

ドルトムントでは《白鳥の湖》、《ペトルーシュカ》、《春の祭典》ほか多数指揮。2013年、香港バレエ《紅楼夢》（振付：Xin-peng Wang）に招聘。2019年、バレエ・アム・ライン（デュッセルドルフ・デュースブルク）の初来日公演《白鳥の湖》指揮（振付：マーティン・シュレップァー）。

中村 敬一 NAKAMURA Keiichi, stage director

オペラ演出家。1957 年東京に生まれる。はじめ、武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑚を積む。

1989 年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版《フィガロの結婚》、二期会公演《ドン・ジョヴァンニ》、《ポッペアの戴冠》で、高い評価を得、続く二期会公演「三部作」、東京室内歌劇場公演《ヒロシマのオルフェ》、日生劇場公演《笠地蔵・北風と太陽》で、演出力が絶賛され、1995 年ジローオペラ新人賞を受賞する。また、2000 年には新国立劇場デビューとなった《沈黙》が、高く評価され、2001 年ザ・カレッジ・オペラハウス公演《ヒロシマのオルフェ》で大阪舞台芸術奨励賞を受賞。オペラの台本も手がけ、松井和彦作曲《笠地蔵》、《走れ メロス》、新倉健作曲《ポラーノの広場》、《窓～ウィンドウズ》、 前田佳世子作曲《どんぐりと山猫》などがある。

音楽的な視点と豊かな感性による舞台づくりは広く認められ、また若い声楽家の指導、オペラの普及に尽力している。

国立音楽大学招聘教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、常葉大学短期大学部音楽科の客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。

※ 事前申込みは不要です。直接会場にお越しください。
※ 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。
※ 公開レッスン開催に際しまして留意事項がございますので、本学公式 Web サイトよりご確認ください。
※ やむを得ない事情により出演者や内容等が変更になる可能性がございますので、予めご了承ください。

主催:国立音楽大学
お問合せ：国立音楽大学演奏芸術センター 042-535-9535　https://www.kunitachi.ac.jp/